

適性検査Ⅰ

注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題は四ページにわたって印刷してあります。
- 3 検査時間は五〇分で、終わりは午前九時四〇分です。
- 4 声を出して読むはいけません。
- 5 問題用紙と解答用紙を提出してください。
- 6 受験番号と受験者氏名を問題用紙と解答用紙の決められたらんに記入してください。

受験番号	受験者氏名

目黒日本大学中学校

次の文章A・文章B・文章Cを読んで、あとの問題に答えなさい。

文章A

日本人の感覚では議論している際に相手の言い分に即座に反対するのは非礼だという感覚がある。たとえ納得がいなくても、頷きながらしつかり聞いて、相手の言い分をよく消化して、その後で頭ごなしの否定にならないような言い方で反対提案をするものだという考えがある。ところが、アメリカ側の受け取り方としては、ひとつの主張がなされ、その場で反論されなければ了解されたことになる。(中略)つまり、アメリカ人は、入ってくる意見に常に自分の意見を対置させ、いわばたえず「イエス」「ノー」とチェックしながら聞く態度を身につけているのに対して、日本人は、そうした門番を置かずに、とにかく入ってくる意見をそのまま頭の中のブランクの部分に取り込み、その後で頭の中の別の場所にしてある自分の意見と照らし合わせるというのだ。(中略)このような聞き方を僕たちがするのも、相手の言い分をまずは尊重すべきと思っているからに他ならない。そうした気づかいが「人の目」を意識する心に発するものと言える。こうした気づかいの応酬が、お互いを否定せず、攻撃しない、穏やかで思いやり溢れる人間関係をもたらす。

(榎本博明『「対人不安」って何だろう?』による)

〈言葉の説明〉

対置……対照的な位置に置くこと

ブランク……空白のこと

文章B

大平^{おおひら}によると、やさしさが若者を中心に価値を持ち始めたのは、一九七〇年前後のことです。その後急速に日本社会が豊かになるにつれて、モノや身体に傷がつくことに、ひとびとは敏感^{びんかん}になりました。そしてこの敏感さは、こころにまでおよびます。

こういう風潮の中で、やさしさもさらに変化してゆきます。それは、治療^{ちりょう}としての「やさしさ」から予防としての「やさしさ」へという変化でした。お互いのココロの傷を舐^なめあう「やさしさ」よりも、お互いを傷つけない「やさしさ」の方が、滑^{なめ}らかな人間関係を維持^{いじ}するのにはよい。そういうことになったのです。

治療としてのやさしさ（以下、治療的やさしさ）も予防としてのやさしさ（以下、予防的やさしさ）も心が傷つくのは良くないことだとみなし、やさしくすることで滑らかな人間関係を保とうとします。ただし心の傷への対処法が異なります。治療的やさしさは相手につけてしまった傷をことばで癒^いすことこそ、やさしさだ、と考えます。一方の予防的やさしさは相手に傷をつけないようにすることこそ、やさしさだ、とみなします。

〈言葉の説明〉

大平……大平健^{おおひらけん}。作中で参照している書籍、『やさしさの精神病理』（岩波新書）の著者。

（森真一^{もりしんいち}『ほんとはこわい「やさしさ社会」』による）

文章C

多くの人は自分が周囲から「変わり者」と思われることを嫌^{きら}います。なるべく周りの人たちと合わせ「同じ」であろうとします。そうしないと、みんなとうまくやっていけないと考える人が多いからで

す。確かに周囲と合わせていればとりあえず仲間はずれにされることもないかもしれませんが、いろいろな機会に誘^{さそ}ってもらいやすくなるかもしれません。そのかわり周囲に合わせていれば自分が思ったことをはつきり口にすることはできませんし、誰^{だれ}かの意見に反論したいと思っても、その思いは飲み込むほかないということになります。でも、「何か違^{ちが}うのではないかな」と感じたことでも「そうだね」と合わせてしまおうとしたら、それは自分の心を裏切るということでしょう。「間違っているような気がする」と思ったことでも、とりあえず「いいね!」と応じてしまおうとしたら、それは自分に嘘^{うそ}をつくとうことです。こうした感覚から目をそらし続けていれば、そのうち自分の感覚を信じることもすらできなくなってしまうでしょう。

(和田秀樹^{わだひでき}『みんなに好かれなくていい』による)

問題

文章Aは、「日本人とアメリカ人の思考習慣の違い」・**文章B**は、「やさしさ」・**文章C**は、「周囲とあわせること」について述べられた文章です。解答らん①には、文章Aから読み取れることを「日本人は」という書き出しで、百字以内で分かりやすく書きましょう。解答らん②には、文章Bの「治療的やさしさ」と「予防的やさしさ」について筆者の言いたいことを、身近な例を挙げて二百五十字以内で分かりやすく書きましょう。解答らん③には、文章A・B・Cを読んで、あなたが他者とコミュニケーションをとるうえで重要だと考えることを、自分の体験や経験などを交えながら、三百字以上、四百字以内で分かりやすく書きましょう。

〈書き方のきまり〉

- 題名、名前は書かずに一行目から書き始めましょう。
- 書き出しや、段落だんらくを変えるときは、一マス空けて書きましょう。ただし、解答らん①については、一マス目から書き始めましょう。
- 行を変えるのは段落を変えるときだけです。会話などを入れる場合は、行を変えてはいけません。
- 読点とくてん↓、句点↓。かぎ↓「などはそれぞれ一マスに書きましょう。ただし、句点とかぎ↓。「は、同じマスに書きましょう。
- 読点や句点が行の一番上にきてしまうときは、前の行の一番最後の字といっしょに同じマスに書きましょう。
- 書き出しや、段落を変えて空いたマスも字数として数えます。
- 最後の段落の残りのマスは、字数として数えません。
- 解答を直すときは、消しゴムで丁寧ていねいに消してから書き直しましょう。

以下余白

